

令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

府中市立図書館サービス状況調査票
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

				（参考）令和5年度実施事業の評価				令和6年度実施事業の評価			
基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見
1 市民の生涯学習を支える図書館	(5) ハンディキャップサービス	ア 図書館利用に障害のある市民にも利用しやすいよう、施設や機能を整備するとともに、きめ細やかな人的支援を行います。 イ 大活字本や点字図書、録音図書などの様々な資料を収集し提供すると同時に、全国的なネットワークを活用して利用者の幅広いニーズに応えていきます。 ウ 通常の活字による読書が困難な方へ、電子書籍などのアクセシブルな資料を提供するほか、対面朗読のサービスを行います。 エ 高齢や心身の障害など様々な理由で図書館に来ることが困難な方に、資料を郵送や宅配するサービスを行います。 オ 子どもたちが自分にあった方法で本の楽しさに出会えるように、布の絵本やさわる絵本、L1ブック（写真や短い文章などをを用い、読みやすく工夫されている本）などの様々な資料を収集し、「りんごの棚」として設置します。	・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌の所蔵数 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成） ・宅配貸出数（図書・雑誌・視聴覚資料） ・郵送貸出数（録音図書・点字図書） ・布の絵本、さわる絵本等の展示の回数	・蔵書数 大活字本3,626冊 点字図書701冊 録音図書924冊 布の絵本109冊 さわる絵本201冊 点字雑誌360冊 ・ボランティア活動 録音図書作成数9タイトル 布絵本作成5タイトル 宅配貸出数1,860点 郵送貸出数1,158点 ・特集展示1回	B ・大活字本は古くなったものを除籍しつつ、新しく刊行されたものを継続して購入して、利用者に提供することができた。 ・録音図書や布の絵本の作成をボランティアと協働して行った。録音図書の蔵書数が減っているのは、カセットテープの録音図書で古くなったものを除籍したためである。 ・図書館利用が困難な方に対して、対面朗読、宅配業務、郵送業務を継続して実施することができた。 ・地区図書館の巡回展示を行うことで利用者の拡大に努めた。 ・特集展示として心身障害者福祉センター「きずな」で1か月間に渡り、布の絵本、さわる絵本を展示した。	・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌など様々な資料の収集を継続して行う。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成をボランティアと協働して行った。 ・図書館利用が困難な方に対して、対面朗読、宅配業務、郵送業務を継続して実施することができた。 ・地区図書館の巡回展示を行うことで利用者の拡大に努めた。 ・特集展示として心身障害者福祉センター「きずな」で1か月間に渡り、布の絵本、さわる絵本を展示した。	ボランティア団体と協働が維持されており、本の宅配、録音資料の作成などが適切に実施されている。ハンディキャップ資料の出張展示も良い取組であった。他の施設でも実施できると良い。 ボランティアを養成する各種講座が好評であることは望ましい。受講対象者の希望する分野を検証し講座企画や開催回数についても拡充されることが望まれる。特に音楽ボランティアの養成に係る講座については、継続・拡充することにより一層の普及サービスを実施できるようにする。 “りんごの棚”（※3）の設置は評価するが、地区図書館や子育て施設などにも拡大できると良い。 ハンディキャップサービスの充実に向けて、読書バリアフリー推進計画の策定の検討、認知症の高齢者が安心して利用できるような認知症バリアフリーの取組を推進してほしい。 中央図書館でのハンディキャップサービスは充実できているが、地区図書館での大活字本などは少ない。また、対面朗読、宅配・郵送サービスについても地区図書館や障害者団体、学校を通してすべての生徒たちにも図書館のハンディキャップサービスを周知するなど、より一層の広報が必要である。 対面朗読をするボランティアは多いが録音図書を作るボランティアがなかなか育っていない。また、対面朗読の回数も多いものの、利用している人数自体は決して多くない方で、より多くの人が利用できるようにサービスの周知・広報の徹底が求められる。 対面朗読の方法についての工夫やりんごの棚の拡充が利用者の拡大に繋がると思われる。 ハンディキャップサービスという名称は、利用者側にハンディキャップがあるという考え方を基に導かれていた名称であるため、「読書支援サービス」などといった名称への変更を検討してほしい。 広報に関しては、他の図書館の成功事例から、障がい者団体や医院などと連携してのアウトリーチ型の広報が有効なアプローチだと思われる。	・蔵書数 大活字本3,698冊 点字図書717冊 録音図書938冊 布の絵本112冊 さわる絵本201冊 点字雑誌371冊 ・ボランティア活動 対面朗読252回 録音図書作成数13タイトル 布絵本作成数3タイトル 宅配貸出数2,011点 郵送貸出数1,161点 ・特集展示1回	B ・大活字本は古くなったものを除籍しつつ、新しく刊行されたものを継続して購入して、利用者に提供することができた。 ・録音図書や布の絵本の作成をボランティアと協働して行った。 ・図書館利用が困難な方に対して、対面朗読、宅配業務、郵送業務を継続して実施することができた。 ・地区図書館の巡回展示を行うことで利用者の拡大に努めた。 ・特集展示として心身障害者福祉センター「きずな」で1か月間に渡り、布の絵本、さわる絵本を展示した。	・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌など様々な資料の収集を継続して行う。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成をボランティアと協働して行った。 ・図書館利用が困難な方に対して、対面朗読、宅配業務、郵送業務を継続して実施することができた。 ・地区図書館の巡回展示を行うことで利用者の拡大に努めた。 ・特集展示として心身障害者福祉センター「きずな」で1か月間に渡り、布の絵本、さわる絵本を展示した。	ボランティア団体との協働が維持されており、適切な対応がなされている。宅配・郵送サービスも適宜行われていて評価したい。引き続きボランティアの協力も得て、サービスの充実にも努めてもらいたい。 ハンディキャップ関連の資料やサービスの存在を知らない市民も多いと思う。例えば、より多くの視覚障害者に知ってもらうために、市内の眼科クリニック等の医療機関と連携して広報してはどうか。 心身障害者福祉センター「きずな」で、布の絵本やさわる絵本の特集展示が行われたことを評価する。他の施設でも行われ、また、子ども発達支援センター「はばたき」でも展示が行われていて評価したい。 「はばたき」でも電子図書館利用の紹介が必要であろう。 また、国の「読書バリアフリー基本計画」は、2025年4月から第2期がスタートした。府中市としても、「読書バリアフリー計画」の策定を検討してもらいたい。
		(6) 多文化サービス	ア 外国籍の方が自国についての情報や日本で暮らしていくための知識が母語で得られるよう、英語、中国語、ハンガールなどの資料を収集し提供します。 イ 外国籍の方に対してわかりやすい館内サインの掲示や、利用案内を行います。 ウ 日本人が外国語を学ぶために役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料を収集し提供します。	・外国語資料のタイトル数 ・外国語資料の活用回数 ・企画テーマ展示の回数 ・団体貸出の団体数、貸出数 ・学習室等の利用人数	・外国語資料13,547タイトル ・外国語資料利用回数及び利用資料名等連絡票の案内用英訳を作成した。 ・特集展示1回 ・図書館だよりでの外国語資料紹介を行った。	B ・例年どおり、外国語資料の収集、提供を行い、外国の方の図書館利用促進を図ることができた。 ・引き続き外国人だけでなく外国人を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集に努める。また、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。	外国語資料も増えており、「図書館だより」での紹介や2回の特集展示もよかった。また、連絡票などの案内の英訳も役に立つ。外国語の雑誌・新聞に関しても、各種取り揃え提供されており評価する。 これからの社会の趨勢として国際化と多様化があげられる。その対応としては増加する外国人のためのサービスの拡充と、私たち市民一人ひとりの国際化の試みが必要である。その二つの観点、未来志向の観点として位置づけ、より積極的な活動を展開すべきである。また、国際化は日本社会の多様化にもつながることから、広い意味でのユニバーサルサービスや、ジェンダーフリーを支える文献や講座の充実も期待したい。 また、外国語の資料を拡充し、資料に辿り着くための表示を見易くすることを積極的に進めてもらいたい。外国語に対応される図書館職員やボランティアを活用して外国人が求める情報で容易に学習できるよう親切的な支援体制を検討することも必要である。 なお、「やさしい日本語」資料の収集と提供についても充実してもらいたい。	・外国語資料13,619タイトル ・特集展示1回	B ・例年どおり、外国語資料の収集、提供を行い、外国の方の図書館利用促進をさらに拡充することができた。	・外国人だけでなく外国語を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集をさらに拡充して行う。また、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。	外国語資料も若干ではあるが増えている。外国語の雑誌・新聞に関しても、各種取り揃えて提供されており評価する。特集展示は、多文化サービスのPRになる。1回行われたことは評価するが、より利用を喚起するための工夫を今後も続けてもらいたい。 在留外国人は、国の想定を越えて増えており、訪日外国人旅行者数も増加の一途を辿っている。日本のグローバル化はトレンドの一つである。図書館サービスについても、引き続き、多言語の対応の充実や、市民の国際理解を進める企画（多文化理解、語学等の講座など）に取り組んでもらいたい。また、外国籍の方でも分かりやすい「やさしい日本語」を活用した取り組みも進めてはどうか。
(7) 学習・文化活動の支援		ア 市内の大学や企業、団体と連携し、様々なテーマの講座の開催や資料の展示などを行います。 イ 市内に活動拠点を置く団体に資料の貸出しを行うことにより、団体が行う読書会や勉強会などの活動を支援します。 ウ 学習室、読書室を整備し、市民の学習環境を提供します。 エ 子どもから高齢者まで幅広い年齢に向けた読書活動を促進するとともに読書への関心が高まるような事業を展開します。	・図書館講演会の回数 ・ワークショップ、朗読会等の回数 ・企画テーマ展示の回数 ・団体貸出の団体数、貸出数 ・学習室等の利用人数	・図書館講演会4回（参加者：延べ136人） ・ワークショップ・朗読会4回実施（参加者：延べ54人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ24人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ59人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ51人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ36人） ・企画テーマ展示9回 ・団体貸出 49団体 6,318冊貸出 ・学習室の利用人数 103,369人 ・グループ研究室の利用件数 114件 ・研究個室の利用人数 3,050人 ・新たに3階メディア通り増集庫を増設したことにより企画テーマ展示を増やし、利用者が展示資料を手に取りやすい環境整備を行った。	B ・講演会・イベントについて、コロナ禍前の通常の数を見ても、魅力ある講座や展示を開催できた。 ・ワークショップ・朗読会4回実施（参加者：延べ54人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ24人） ・令和6年度は市政70周年や女子野球タウンに関連したイベントの実施について検討する。 ・座席申込システムについては利用者の声や利用状況を見ながら、予約時間枠などの運用について適宜見直しを行う。 ・団体貸出について、継続して実施していく。 ・白糸台コミュニティ協議会及び白糸台文化センター主催の「敬老の集い」の中で「おとなのためのおはなし会」を実施し、延べ64人の参加があった。	・幅広い年齢の方が読書や図書館に関心を持てるよう、魅力ある講座や展示を開催する。 ・令和6年度は市政70周年や女子野球タウンに関連したイベントの実施について検討する。 「おとなのためのおはなし会」は、市民の交流を拡大するとして好企画なので継続して実施してほしい。図書館への関心を幅広い世代に持つため、講座や展示、ガイドツアーなどの実施は有意義であり、さらなる広報や集客の工夫を望みたい。 学習・文化活動の支援は、レファレンスサービスとともに生涯学習の基礎を強化する重要な活動である。自主的学習の物理的基盤となるハードと学習のインセンティブや素材に関わるソフトの2つの観点から考える必要がある。ハードの面ではスペースが限られていることからそれほど大規模な量的拡大は難しいが、利用の利便性や高度化を支える仕掛けの部分では改善や進化の余地はあるものと考えられる。ソフト面では、講演会の回数も重要であるが、現代社会に向き合うための知識やスキルを養成するようなテーマの設定やレファレンスサービスとの連携も必要である。そのためには近隣大学や研究所との連携、当市における生涯学習審議会での方向性との共有が必要だろう。 昨今はスポーツに関する話題が多いと感じるが、スポーツ以外の話題も欲しい。市民文化・文学・社会・福祉・経済・法律・歴史などは掘り下げれば学習の分野は広大である。身近な知識を講座のテーマとすることも期待したい。世代を問わずに興味を惹かれる講座は市民としても団体としても学習する機会となる。 なお、府中市出身の作家や漫画家の展示や講演会を開催することを提案したい。	・図書館講演会4回（参加者：延べ213人） ・ワークショップ・朗読会6回実施（参加者：延べ161人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ20人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ60人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ59人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ34人） ・企画テーマ展示11回 ・団体貸出 55団体 5,967冊貸出 ・学習室の利用人数 108,484人 ・グループ研究室の利用件数 172件 ・研究個室の利用人数 3,403人	B ・市制70周年記念として、著名な児童作家を講師とする講演会をコンベンションホールで開催できた。 ・市を活動拠点とする読売ジャイアンツ女子チームと連携し、特集展示を行った。 ・市制70周年に併せ、府中ではじめてした、多摩地域、東京地域の特集展示を行った。 ・団体貸出について、継続して貸出しを行い、読み聞かせや読書会などの支援を行った。	・幅広い年齢の方が読書や図書館に関心を持てるよう、魅力ある講座や展示を開催する。 ・令和6年度は市政70周年や女子野球タウンに関連したイベントの実施について検討する。 「おとなのためのおはなし会」は、市民の交流を拡大するとして好企画なので継続して実施してほしい。図書館への関心を幅広い世代に持つため、講座や展示、ガイドツアーなどの実施は有意義であり、さらなる広報や集客の工夫を望みたい。 学習・文化活動の支援は、レファレンスサービスとともに生涯学習の基礎を強化する重要な活動である。自主的学習の物理的基盤となるハードと学習のインセンティブや素材に関わるソフトの2つの観点から考える必要がある。ハードの面ではスペースが限られていることからそれほど大規模な量的拡大は難しいが、利用の利便性や高度化を支える仕掛けの部分では改善や進化の余地はあるものと考えられる。ソフト面では、講演会の回数も重要であるが、現代社会に向き合うための知識やスキルを養成するようなテーマの設定やレファレンスサービスとの連携も必要である。そのためには近隣大学や研究所との連携、当市における生涯学習審議会での方向性との共有が必要だろう。 昨今はスポーツに関する話題が多いと感じるが、スポーツ以外の話題も欲しい。市民文化・文学・社会・福祉・経済・法律・歴史などは掘り下げれば学習の分野は広大である。身近な知識を講座のテーマとすることも期待したい。世代を問わずに興味を惹かれる講座は市民としても団体としても学習する機会となる。 なお、府中市出身の作家や漫画家の展示や講演会を開催することを提案したい。		

府中市立図書館サービス状況調査表
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	(参考) 令和5年度実施事業の評価				令和6年度実施事業の評価			
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見
				・児童書所蔵数 ・企画テーマ展示の回数 ・おはなし会の回数 ・ブックトークの回数 ・赤ちゃん絵本文庫の回数 ・赤ちゃん絵本文庫の登録者数 ・児童向けイベントの回数 ・おすすめ図書リストの作成数 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数	・児童書所蔵数 359,196冊 ・企画テーマ展示 16回 ・おはなし会 中央：86回 延べ1,067人 地区：288回 延べ1,735人 ・ブックトーク 4回 延べ20人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 886人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：6回 延べ1,127人 地区：53回 延べ4,218人 ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 5回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 11回（※荒天のため12回のうち1回中止） 延べ103人 ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」の策定	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書やキャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設イベントと連携した事業を行う。	・児童サービスについて多彩な事業が行われている。また、おはなし会は年齢にあった企画で行っている点も良い。図書館利用が少なくなり始める小学校高学年向けの「よむよむ探検隊（ブックトーク）」なども評価できる。また、「赤ちゃん絵本文庫」も子育て支援として良い取組である。タイムリーな企画展示や講演会も評価したい。パンフレット類の作成・更新も適切であった。 ・子ども時代の学習経験は特に重要である。読書による効能について直接的に伝えることは重要な施策と考える。学習することの楽しさを広げ、関心と呼ぶような図書を夫々広く展示しても良い。 ・現在も行われているが、地区図書館では、福祉施設や文化センター行事と連携しておはなし会などをより積極的に行ってもらいたい。 ・学習意欲のある子どもを手助けし、情報提供や問題解決への支援を行うことは非常に重要であり、図書館職員がその助けとなる仕事をしていると知ってもらうことも重要である。 ・児童館職員に取ってみて、はじめて読みたいという意欲が湧くので、地区図書館の蔵書充実を望みたい。	・児童書所蔵数 362,423冊 ・企画テーマ展示 17回 ・おはなし会 中央：85回 延べ974人 地区：288回 延べ1,869人 ・ブックトーク 3回 延べ15人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 966人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：5回 延べ1,350人 地区：52回 延べ3,965人 ・赤ちゃん絵本文庫 36回 966人登録 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 4回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 12回 延べ116人	B・対象年齢ごとに、各種イベントを実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、おはなし会等の参加者の増加に寄与することができた。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書やキャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設イベントと連携した事業を行う。	・児童サービスについては、中央図書館、地区図書館ともに多彩な事業が行われている。おはなし会は当然ながら年齢にあった企画を行っており、参加者も増えている。「親子DE読書タイム」も子育て支援につながる取り組みとして評価したい。昨年度同様に子ども読書活動推進委員会の取り組みも適切に行われている。今後もおはなし会を地区図書館と文化センターの協力・連携によって行う事により参加者を増やすことができると思う。 ・子どもと本を結ぶための魅力ある取り組みに期待していて、府中市立小中学校教育研究会図書館研究部などと連携して、子どもと本の結びつきを強めてもらいたい。
2 子 ど も の 生 き る 力 を 育 み 青 少 年 に も 魅 力 あ る 図 書 館	(8) 児童サービス	A 魅力ある絵本やよみものなどを豊富に揃えるとともに、本の配架やテーマに沿った展示を工夫し、子どもたちが本の楽しさに出会い、自ら考え、学ぶ力を育むことのできるサービスを提供します。 イ 読書相談や子どもたちから寄せられるレファレンスに対応します。 ク 乳幼児期からの読書への働きかけが読書習慣を形成するうえで大切なことから、豊富な乳幼児向け資料を用意し、親子が気軽に立ち寄れる場を提供します。 エ おはなし会や読書キャンペーンなどの行事を定期的に行い、子どもたちへ本の楽しさや、本との出会いの場を提供します。 オ 健全育成及び安全性などに配慮し、子どもたちが安心して利用できる環境を提供します。 カ 子育て中の親、または育児に関わる大人が利用しやすい読書環境を整備し、子どもと一緒に本を楽しむ場を提供します。	・児童書所蔵数 ・企画テーマ展示の回数 ・おはなし会の回数 ・ブックトークの回数 ・赤ちゃん絵本文庫の回数 ・赤ちゃん絵本文庫の登録者数 ・児童向けイベントの回数 ・おすすめ図書リストの作成数 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数	・児童書所蔵数 359,196冊 ・企画テーマ展示 16回 ・おはなし会 中央：86回 延べ1,067人 地区：288回 延べ1,735人 ・ブックトーク 4回 延べ20人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 886人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：6回 延べ1,127人 地区：53回 延べ4,218人 ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 5回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 11回（※荒天のため12回のうち1回中止） 延べ103人 ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」の策定	A・各種イベントについて、概ね大きな制限なく実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、参加者の増加に寄与することができた。 ・子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設イベントと連携した事業を行う。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書やキャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設イベントと連携した事業を行う。	・児童サービスについて多彩な事業が行われている。また、おはなし会は年齢にあった企画で行っている点も良い。図書館利用が少なくなり始める小学校高学年向けの「よむよむ探検隊（ブックトーク）」なども評価できる。また、「赤ちゃん絵本文庫」も子育て支援として良い取組である。タイムリーな企画展示や講演会も評価したい。パンフレット類の作成・更新も適切であった。 ・子ども時代の学習経験は特に重要である。読書による効能について直接的に伝えることは重要な施策と考える。学習することの楽しさを広げ、関心と呼ぶような図書を夫々広く展示しても良い。 ・現在も行われているが、地区図書館では、福祉施設や文化センター行事と連携しておはなし会などをより積極的に行ってもらいたい。 ・学習意欲のある子どもを手助けし、情報提供や問題解決への支援を行うことは非常に重要であり、図書館職員がその助けとなる仕事をしていると知ってもらうことも重要である。 ・児童館職員に取ってみて、はじめて読みたいという意欲が湧くので、地区図書館の蔵書充実を望みたい。	・児童書所蔵数 362,423冊 ・企画テーマ展示 17回 ・おはなし会 中央：85回 延べ974人 地区：288回 延べ1,869人 ・ブックトーク 3回 延べ15人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 966人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：5回 延べ1,350人 地区：52回 延べ3,965人 ・赤ちゃん絵本文庫 36回 966人登録 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 4回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 12回 延べ116人	B・対象年齢ごとに、各種イベントを実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、おはなし会等の参加者の増加に寄与することができた。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書やキャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設イベントと連携した事業を行う。	・児童サービスについては、中央図書館、地区図書館ともに多彩な事業が行われている。おはなし会は当然ながら年齢にあった企画を行っており、参加者も増えている。「親子DE読書タイム」も子育て支援につながる取り組みとして評価したい。昨年度同様に子ども読書活動推進委員会の取り組みも適切に行われている。今後もおはなし会を地区図書館と文化センターの協力・連携によって行う事により参加者を増やすことができると思う。 ・子どもと本を結ぶための魅力ある取り組みに期待していて、府中市立小中学校教育研究会図書館研究部などと連携して、子どもと本の結びつきを強めてもらいたい。
	(9) ヤングアダルトサービス	A 中学生・高校生世代に、日常生活や成長過程に沿ったテーマの資料を揃え、読書への働きかけを行います。 イ 青少年世代同士の情報交換の場を設けます。	・企画テーマ展示の回数 ・青少年向けイベントの回数	・企画テーマ展示 5回 ・夏休みキャンペーン「My Favorite Things」ラグビーのまち府中〜君にバズ！繋げよう「お気に入り」ボール〜」延べ30人※明星中学校2年生と協働	B・それぞれの取組を通じて、中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができました。特に夏休みキャンペーンでは、ラグビーワールドカップに併せ、市内トップチームの選手とのコラボイベントとして実施することができた。 なお、中高生世代の「不読」（特に高校生は不読率5割）がより指摘される一方で、よく本を読む中高生の姿や声はあまり表に出てこない。部活をやっているも受験勉強をしているも本をよく読む中高生の読書術などを積極的に発信する必要がある。 多感な中高生世代に図書館利用の有効性を説く機会も重要である。社会に生きる知識を学ぶには自分で検索し、自分で知識に迫り着く過程が如何に重要であるかを知らせることも必要である。ネット検索で容易に結論だけを得ても正確なものは限りがあろう。目前の直接的結論ばかりではなく、多様な情報の中から最も適当な答えはどれかを探る過程が大切であると感じてもらうために、人と人との接触による学習は不可欠である。また、ネットで得た知識をどのように活用するかということも知るべきである。図書であれネット情報であれ、そこで得た知識をいかに活用するか、そのためには適切な助言が必要である。図書館の企画として支援が出来るイベントがあることが望ましい。 中高生を特に「ヤングアダルト（※4）」と分類してサービスを提供することは、特に不読率が高く、本を読まなくなってしまう傾向のある世代であるため、必要であるが、「ヤングアダルト」という名称はあまり一般的ではなく、当事者にとっても自分たちのことを表しているという意識も希薄である可能性もあるため、「ティーンズ」などの名称に変更を検討しても良いのではない。また、当該コーナーの場所・蔵書内容については中高生世代自身の意見を参考にして、工夫することが重要と考える。	・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へとつなげる。	・中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができました。特に市制施行70周年記念の読書イベントでは、普段図書館に来ない層への図書館のPRを行うことができ、来館へとつながった。	・中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができました。特に市制施行70周年記念の読書イベントでは、普段図書館に来ない層への図書館のPRを行うことができ、来館へとつながった。	・中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができました。特に市制施行70周年記念の読書イベントでは、普段図書館に来ない層への図書館のPRを行うことができ、来館へとつながった。	・中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができました。特に市制施行70周年記念の読書イベントでは、普段図書館に来ない層への図書館のPRを行うことができ、来館へとつながった。	・市制70周年記念読書イベントは、ヤングアダルト世代にとって興味深いイベントで参加者も多かった。図書館を再認識してもらう取り組みになったと思う。とかく図書館離れが起きている世代であり、彼らの感性にあった取り組みを図書館が提供することの意義は大きい。今後も中学・高等学校との協働事業を拡大し、彼らの感性に訴える取り組みを行ってもらいたい。 また、ヤングアダルトコーナーには、小説だけでなく、実用的なニーズをキャッチした資料が必要なのではないか。若者たちの感性にあったノンフィクション資料も充実してもらいたい。同時に、ヤングアダルト世代が、書籍から学ぶこと、画面で学ぶこととの違いが分かるように、それぞれの特徴を分かりやすく説明し、情報の質や量の違いを実感できる場を設けてみてはどうか。 府中市の友好都市の大学などの情報も配架して、相互交流を行い、府中市に貢献することで市内や、国内に留まらない国際人の育成の土壌づくりを目指してほしい。 成人年齢が下がったことで、成人の意識を学ぶ場を広げ増やしてはどうか。若者の投票率が問題になっている今日、選挙が自分自身の日々の暮らしにどのように関わるのかを知るための展示や講座があってもいいのではないかな。 また、現代の政治や社会状況などについても青少年が学ぶ機会を感じさせる情報発信があってもよい。サポーター広告を入れた読書通帳を導入して、本質的にアプローチすることも有効だと考える。 中学・高校生世代は、スマートフォンを持っている人が多いので、電子図書館を活用してスマートフォンから読書へ誘うような働きかけもほしい。 府中市立小中学校教育研究会図書館研究部の小学校での研修で、中学校の図書室を担当する司書の方に講師をお願いして、中学校図書室の本の種類、見せ方、本の薦め方などを学んだことがある。その経験を小学校の6年生児童に伝え、中学校への進学を楽しみにしてもらったことがある。入学、進学に向けて、他の学校の図書室に目向け、連携することは効果的であり、図書館からもサポーターしてもらいたい。 「ヤングアダルト」が図書館用語であることは尊重するが、利用者向けに提示する場合では一考が必要で、中学・高校生などに響くような表現が必要である（「ヤングアダルト」が外せないならば、併記しても良い）。ヤングアダルトより若い世代に伝わりやすい表現が必要である。 また、学校や図書館で行われる推薦図書は往々にして読書の押しつけ的印象になりがちで、若い頃の読書体験談や思い出を学校の先生から募ったり、著名人のエッセイから引用したりして、若い頃の読書がどれだけ心の栄養となるのかを伝える試みはほしい。
	(10) 学校支援サービス	A 学校図書館にある資料で解決できない調べ学習の課題などに、資料提供やレファレンスにより支援します。 イ 学校貸出を行い、資料の支援を行います。 ウ 学校からの要請で、まちなんけんや社会科見学、中学生などの職場体験などの受入れを行います。	・学校貸出の貸出総数、1クラス平均冊数（小・中学校） ・まちなんけん、社会科見学などの受入数 ・職場体験受入数	・学校貸出 貸出総数 12,618冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：4.3冊 ・まちなんけん、社会科見学などの受入数 中央：2回 地区：15回 ・職場体験受入数（中央）10校35人 ・職場体験受入数（地区）9校38人	B・学校貸出及びまちなんけん、社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・引き続き、まちなんけんや社会科見学、職場体験等の受入れを行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。	・学校貸出数及びクラス平均冊数も増えてきている。また、まちなんけんや社会科見学で職場体験の受入れも各館で行われていることを評価したい。 ・学校図書館の機能と市立図書館の性質の違い及び活用方法や提供されるサービスについて周知する必要がある。正確に理解してもらうために見学の受け入れは非常に重要である。職場体験に来館した生徒には、問題解決の道標探しや図書の選定作業も体験させると有意義である。 学習支援の観点から教員との連携事業（例えば、調べ学習の情報共有等）や、学校司書に対する研修事業へのバックアップなどサービスの強化に取り組んでほしい。 （9）のヤングアダルトサービスとの連携で、学校図書館と協力して中高生世代の意見を聴取してニーズなどを汲み取っていく必要がある。 また、電子図書館についても、学校との連携を模索しながら、引き続き学校図書館を支援する重要な機能として考えてもらいたい。	・学校貸出 貸出総数 11,225冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：0.6冊 ・まちなんけん、社会科見学などの受入数 中央：4回 地区：17回 ・職場体験受入数（中央）6校22人 ・職場体験受入数（地区）8校20人 ・小学校出張おはなし会 8回1校（中央） ・小学校出張ブックトーク 2回1校（中央） ・ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントのテスト校での試験実施 小学校2校 中学校1校	A・学校貸出及びまちなんけん、社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・市立中学校の職場体験については、中央・地区図書館それぞれで受入れを行った。 ・学校貸出の案内の見直しや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動や支援に力を入れた。 ・「ふちゅう電子図書館」と学校との連携において、テスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。	・学校貸出セットの見直しを行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちなんけんや社会科見学、職場体験等の受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動や支援に力を入れた。 ・「ふちゅう電子図書館」と学校との連携において、テスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。	・学校貸出セットの見直しを行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちなんけんや社会科見学、職場体験等の受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動や支援に力を入れた。 ・「ふちゅう電子図書館」と学校との連携において、テスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。	・まちなんけん」や社会科見学、また、各図書館での職場体験の受入れも行われている。新たな取り組みとして「小学校出張おはなし会」や「小学校出張ブックトーク」が行われたことを評価する。 また、「ふちゅう電子図書館」の学校連携を模索する取り組みとして、テスト校での試験実施も行われ、その成果を期待したい。特に、印刷資料と電子書籍のハイブリッドな学校支援に期待している。 学校貸出しの期間が6週間と長く、時間をかけて調べ学習や読書に取り組むことができる。 小学校では図書委員会の活動を通して読書活動を推進していて、電子書籍の冊数が増えて、児童や教員から喜びの声があがっている。印刷資料も電子書籍も含めて、傍らに読みかけの本を置くという指導に役立っているという声もある。 「全国学力・学習状況調査」の結果から家にある本の冊数が多い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。家庭における蔵書数、新聞を読む機会が増えている中で、学校図書館や公共図書館の果たす役割は大きい。引き続き、図書館が学校図書館との連携、支援を行い、学校司書対象に魅力的な学校図書館を作るための研修会の実施や、電子図書館の充実、まちなんけんや職場体験への協力など、学校図書館の支援に取り組んでもらいたい。

府中市立図書館サービス状況調査表

令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	(参考) 令和5年度実施事業の評価				令和6年度実施事業の評価			
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見
3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館	(11) 視聴覚サービス	ア 視聴覚資料は、その他の資料との関係を考慮しながら、音声・映像資料（CD、DVDなど）を収集します。 イ 映像資料の映写会の実施や視聴用機器を設置し、館内での視聴を可能にするなど、視聴覚資料ならではの様々なサービスを展開します。	・視聴覚資料の所蔵数 ・視聴席利用回数 ・企画テーマ展示の回数 ・映写会の実施回数	・視聴覚資料の所蔵数66,797点（再掲） ・視聴席利用回数7,162回 ・企画テーマ展示18回 ・映写会実施回数1回（バリアフリー上映会「アヲヤシキの住人たち」：参加者19人）	B ・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・ナクソスミュージックライブラリーのリファラー認証導入によって、利用者の利便性が向上し、多くの利用があった。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。	長年、視聴覚資料の充実に努め、視聴覚資料の所蔵数は、他自治体の図書館に比べて充実している。ナクソス・ミュージック・ライブラリーの利便性も向上し評価できる。今後も時代の変化をとらえてサービスの提供方法などを工夫しながら、より良いサービスの提供に努めてもらいたい。 なお、時期に合った映写会などで集客を図り、図書館への興味を呼び起こすことは有効である。 現在、図書と視聴覚資料とは貸出期間が異なるが、それでは同じに借りても返却のために二度足を運ばなければならない。図書であれば、視聴覚資料であれば、貸出期間が同一であれば借借も返却も一度で済むので、検討をしてもらいたい。	・視聴覚資料の所蔵数67,152点 ・視聴席利用回数6,996回 ・企画テーマ展示17回 ・映写会実施回数1回（バリアフリー上映会「じんじん」：参加者26人）	B ・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・より多くの視聴覚資料を借りてもらうきっかけ作りとして、資料の特集ページを印に追加導入を検討し作業を進めた。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。	視聴覚資料の所蔵数が着実に増加していることは評価できる。しかし、昨年度に比べると視聴覚資料の貸出点数も視聴回数も減少している。長年、視聴覚資料の充実に努め、その所蔵数も他の図書館に比べれば多いが、作品内容や媒体が古くなっているのではないか。劣化した資料の入れ替えなども行い、新鮮味のある蔵書構成となるようにしてほしい。 また、スマートフォンやタブレット、パソコンでの動画視聴の普及により代替えされてしまっている可能性もある。視聴者のニーズは決まられたものを見る（テレビ等）ニーズから、興味のあるものを自由に視聴する（動画配信等）に移り変わっており、前者を選択的に視聴しているのではない。維持コストを考えるとサービスの方法の検討も必要であろう。
	(12) 情報発信サービス	ア ホームページや配信メールの活用により、資料及び図書館に関する情報を迅速に利用者に提供します。 イ 紙媒体・電子媒体の資料の整理と活用を図るため、情報検索の手段となるデータベース化を行います。 ウ レファレンスの質問や新聞記事見出しなどのデータベース化を継続し、情報提供の支援を行います。 エ 市民が利用するインターネット端末を整備し、情報収集の機会を提供します。 オ 様々な理由で図書館に来館することが困難な方などに向けて、電子図書館などの非来館型サービスを実施します。	・ホームページのアクセス数 ・データベース利用者数 ・インターネット席利用者数 ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）（再掲）	・ホームページのアクセス数1,724,206件 ・データベース利用者数829人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者110人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・インターネット席利用者数6,876人 ・電子書籍（タイトル数11,935点、ログイン数25,318回、閲覧貸出数34,011点）（再掲）	B ・ホームページを更新し、地区図書館や特集展示のイベントの情報など発信情報を充実させた。 ・市民のニーズに応じたデータベースを提供できた。 ・非来館型サービスとして「要望の多かった電子書籍サービスを開始し、順調に利用いただいた。	・既存データベースの活用方法の周知に努める。新たなデータベースの導入検討を行う。 ・電子書籍サービスの周知に努め、多くの方に利用してもらえよう工夫をする。	ホームページでの情報発信は適宜行われているが、アクセス件数は減っている。コロナ禍の影響で中央図書館の長期休館の影響が大きいものと判断し、令和5年度の数字がノーマルな数字と捉えた。今後も図書館のホームページやSNSを活用してイベント情報や図書館職員の仕事などのPRを情報発信していく必要がある。 電子書籍の利用は大幅に増えている。コンテンツも増えているが、コンテンツの更なる充実へのリンクをお願いしたい。 データベースの利用数が増えており、有効なオンラインデータベースが導入されていると評価できる。国立国会図書館デジタル化資料送信サービスやオンラインデータベースの有効性の周知や活用方法の講座などを企画することで、より一層の利用促進につながると思う。 中央図書館も地区図書館もイベントを積極的に広報すべきである。広報は資料の展示になりがちなが、図書館の利用価値について、図書館職員が出来る支援や、図書館職員が身近存在であることも広報すべきではないか。実際に図書館職員として働いているスタッフの存在についても分かりやすく伝え、その業務や、図書の管理、補修、選書の苦労なども知らせていく必要がある。 来館しない市民に対して、図書館の利用ガイドや学習のヒントとなる情報を発信し、来館を促してもらいたい。	・ホームページのアクセス数1,644,607件 ・データベース利用者数821人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者50人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・インターネット席利用者数7,662人 ・電子書籍（タイトル数13,176点、ログイン数28,508回、閲覧貸出数38,708点）（再掲）	B ・ホームページに地区図書館や特集展示のイベントの情報などを掲載して周知した。 ・市民のニーズに応じたデータベースを提供できた。 ・令和7年3月で電子図書館のサービス開始から2年が経過し、ログイン数、閲覧貸出数ともに増加している。	・引き続きデータベースの周知を積極的に進めていく。 ・電子図書館のさらなる周知とコンテンツの充実とコンテンツの活用方法の講座などが必要と思われる。その意味では「市民のニーズに応じたデータベースを提供できた」と言う所管課評価には疑義を感じる。 電子書籍の利用は増加傾向にあり、その点は評価したい。コンテンツも増えているが、コンテンツの更なる充実と努め、電子図書館のさらなる周知のために、様々な機会を利用して利用体験などを実施してはどうだろうか。 令和7年3月で「図書館だより」等による広報活動については、引き続き積極的に取り組んでほしい。ただし、内容が活字中心のデザインのように感じる。写真等の活用によりイベントなどの様子が分かるようにするなど、視覚的に市民に読んでもらえる内容にしていきたい。市民や府中市に関係する著名人等、様々な世代、ジャンルのおすすめ本を紹介する内容を掲載するなど、本の魅力を発信するのよいと思う。 また、非来館型のサービス提供は時代の趨勢であるが、来館して学ぶこととの差を理解する施策も必要である。来館が共通の課題で学ぶ場として、両好しの土が交わる場を設ける、人と人との交流が拡大し相互に研鑽する場としての機能も検討して良いのではないかと。 地区図書館のイベントは、日頃から図書館を利用する本の好きな子ども達には分かるが、イベントの情報を知らない子ども達も多い。それを改善するため、併設されている文化センターなどと一緒に広報活動を行ったり、地区図書館職員と学校図書館職員が顔を合わせる機会をつくることも有効であろう。	
4 市民の誇りとなる図書館	(13) 地域情報の提供サービス	ア 郷土資料や行政資料など地域資料の整備と活用を図り、市民及び市政への情報提供を行います。 イ 地域資料のデジタル化を実施し、紙資料の保存と資料閲覧における利便性の向上を図ります。さらに、閲覧を希望する方がいつでも活用できるよう、デジタル化した資料を著作権に留意しながら、インターネットで提供します。	・地域資料の所蔵資料数 ・地域資料の修繕数 ・「子ども府中はかせ」の発行回数 ・地域資料デジタル化点数（令和4年度開始）	・地域資料の所蔵資料数 92,524点 ・地域資料の修繕数 26点 ・子ども府中はかせ14号「府中の用水」発行 ・地域資料デジタル化点数116件	B ・難解な地域資料を、児童・向けて平易な表現にした冊子を作成した。 ・8か年計画の2年目として地域資料のデジタル化を実行した。	・引き続き、府中市に関連する資料を収集・保管する。 ・幅広い世代の利用者が郷土に関する資料に触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。	歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的に行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8か年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取組として他の図書館のモデルになる事業である。また、子ども向けの「子ども府中はかせ」の発行も良い取組であった。難解な地域資料を平易な表現にした冊子を作成したことは好ましいことである。子どもだけでなく多くの世代の市民が地域情報の容易に理解するため有効だろう。この冊子で提供する情報は既成の地域資料に限らず、実際に市民や団体が活動している知られざる新鮮な情報も取りまとめて提供されることが望ましい。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した発行をお願いしたい。 『新府中市史』刊行関連の講演会や地域関連資料の企画展示などを行い、地域の図書館としての役割を果たしてもらいたい。	・地域資料の所蔵資料数 93,583点 ・地域資料の修繕数 28点 ・子ども府中はかせ1～10号改稿・製本 ・地域資料デジタル化点数107件	B ・平成23年から令和2年に発行した子ども府中はかせを改稿し、製本した。 ・8か年計画の13年目として地域資料のデジタル化を実行した。	・引き続き、府中市に関連する資料を収集・保管する。 ・幅広い世代の利用者が、地域資料に触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。 ・『新府中市史』刊行を利用者に周知するため、展示等を検討する。	地域資料の収集とデジタル化において着実な成果を挙げている。歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的に行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8か年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取組目として他の図書館のモデルになる事業である。 また、地域資料のデジタル化は、学校や家庭など、様々な場所・機会に閲覧できるようになり大変便利である。 一方で、このような地域資料の開示や利用についての啓発活動も望みたい。例えば、わがまち（自治会・町会）の歴史や由来についてのモデル展示なども有効だろう。 また、子ども向けの「子ども府中はかせ」の改稿・製本が行われた。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した取り組みをお願いしたい。 観光プロモーション課や府中観光協会の「SDGs探究学習プログラム」との連携なども視野に入れ、図書館を情報拠点として、府中市の魅力を市内外にアピールしてほしい。
	(14) ボランティア活動の推進	ア おはなし会や対面朗読などの講習会を実施し、図書館や学校などで活躍するボランティアを養成します。 イ 図書館におけるボランティア活動を推進し、市民との協働を積極的に行います。	・ボランティアの登録者数 ・読み聞かせ講習会の回数 ・おはなしボランティアステップアップ講座の回数 ・音訳ボランティア養成講座の回数	・ボランティアの登録者数 ・おはなしボランティア 60人 ・音訳ボランティア 25人 ・宅配ボランティア 23人 ・布絵本作成ボランティア 4人 ・読み聞かせ講習会 6回 延べ116人 ・おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ375人 ・音訳ボランティア養成講座 8回 延べ73人	B ・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、従来の住居はがきに加え、申込用紙やフォームからの受付を開始し、利便性の向上に努めた。 ・音訳ボランティアの養成については、音訳ボランティア養成講座とデイジー編集講座を行い、令和3年度に加入したボランティアの方の技術向上を図ることができた。 ・宅配ボランティアについて、広報ふらうに募集記事を載せて登録者数を増員した。	・引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働についても継続して進めていく。 ・音訳ボランティアについて、新規で募集を行い、担い手を確保する。	以前から多くのボランティアの皆さんに協力をしていただき様々なサービスを展開しており、その点は高く評価したい。また、新規ボランティアの募集やスキル向上に向けた取組も適宜行われている。図書館での取組と同時にボランティアの皆さんの活動に感謝したい。安上りが行政の温床とせず、ボランティアと協働し、共に成長する図書館を目指してもらいたい。 また、ボランティア全体の高齢化が進むなかで、これまで培ってきたノウハウや専門性を賢いしていくためには、幅広い世代のボランティアを増やす必要がある。働いていても参加しやすいように、養成の講座や講習会の開催も、時間や見直しなども検討してほしい。 実際に活動する場が地区図書館の場合は、養成講座も協働のほうが参加しやすい。 図書館の魅力や機能をPRするためにボランティアとの協働があっても良い。幅広い世代への活動の継承や地区図書館でのボランティア講座、子どもとボランティアの交流など、様々な活動を行う必要がある。 なお、布絵本作成ボランティアの人数が少ないので、手芸サークルなどへの呼びかけや作品展示の実施などにより人数を増やすことができたら、「りんごの棚」の増加につながると思う。	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 61人 音訳ボランティア 30人 宅配ボランティア 15人 布絵本作成ボランティア 4人 読み聞かせ講習会 6回 延べ148人 ・おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ359人 ・音訳ボランティア養成講座 10回 延べ112人	B ・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、昨年度に引続き、住居はがきに加え、申込み専用フォームからも受付を可能とした。ステップアップ講座では、時代やボランティアのニーズに合わせて講師をお招きし、技術向上を図ることができた。 令和6年度には新規で音訳ボランティアの採用を行うとともに初級ボランティア養成講座を行い、技術向上を図った。 宅配ボランティアについて、継続して募集しているが、利用者の住所とボランティアの方の希望する活動範囲にずれがあったため、活動を行えないボランティアの方が多かった。	・引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働についても継続して進めていく。 ・新規採用した音訳ボランティアについて、継続して講師をお招きし、技術向上を図ることができた。 令和6年度には新規で音訳ボランティアの採用を行うとともに初級ボランティア養成講座を行い、技術向上を図った。 宅配ボランティアについて、継続して募集しているが、利用者の住所とボランティアの方の希望する活動範囲にずれがあったため、活動を行えないボランティアの方が多かった。	多くのボランティアの皆さんに協力をしていただき、様々なサービスを展開している。その点は高く評価したい。また、新規ボランティアの募集やスキル向上に向けた取り組みも適宜行われている。宅配ボランティアの活動範囲のずれの問題も起きているようであるが、せっかくのボランティア活動であり、ミスマッチのないような方を考え、多くのボランティアの方に関わってもらいたい。 ボランティアによる本の読み聞かせは、子どもにとって読解力や想像力を育て、情緒の安定や集中力が身に付くなど、子どもの発達に効果的な取り組みである。市民向けに読み聞かせの取り組み等について積極的に発信し、市民の方の理解を図るとともに、新たなボランティアの人材確保や、専門性の向上に引き続き取り組んでほしい。 また、若い世代がボランティアに参加しやすくなるように、講座の開講日や時間割、方法（オンラインの併用等）の検討を進めていただきたい。そもそも、講座の開催情報自体が市民に十分に周知されているとは言い難いように思うので、周知方法も工夫してほしい。 宅配ボランティアは、図書の利用ばかりではなく地域の見回り効果なども期待できる。地域の交流拡大の効果もたらすとと思われるので大切に推進してほしい。宅配ボランティアの活動が知られれば、市民が図書館に目を向ける動機づけになる。利用者が増加することを期待する。 消費税などの税金や毎年社会保険料も上がり続ける中で、実質賃金は下がりが続き、物価は30年前の2倍、貧困率は67中で最低ランクという状況である。そのような厳しい社会情勢の中で、現役世代のボランティア活動は、なかなか厳しい状況になってきている。ボランティア活動を尊重しながらも、発想を転換して、福祉関連団体等との連携・協力を促すことによって、情報の質を高め、参加者のメリットにも繋がり、図書館サービス利用者である消費者の知的好奇心に訴求したものが作れるのではないかと、その点の検討も必要であろう。 毎年、読み聞かせ講習会を行っているが、非常に狭き門で何年か抽選に選れている方もある。受講人数を増やしてほしい。 また、ボランティアの登録について、募集人数や選考方法が分かりにくいので、選考基準などを明確にしてほしい。その際、他市や他団体で読み聞かせのボランティアをやっている経験も選考時に考慮してほしい。

その他ご意見
「3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館」について、「市民の情報拠点となる図書館」を実現するサービスが（11）視聴覚サービス（12）情報発信サービス であることは大きな違和感がある。（11）はデジタルコンテンツの貸出であり、（12）は図書館が提供する情報の電子化の話である。いずれも「市民の情報拠点」という役割とはストリートには結びつかない。これらを別の役割（基本方針）の中に分類しなおすか、あるいは、「情報化社会における市民の情報拠点となる図書館」という役割（基本方針）名を変更するかする必要がある。ただ、「市民の情報拠点となる図書館」という役割設定は、生涯学習との関連でも極めて重要と思われるので、これを残して、それを実現する機能を明らかにすべきであろう。その際、「情報化社会」とはITの利活用が進む社会であり、市民の情報拠点と言う場合には、市民が主体的にITを問題解決に使うための拠点と理解されるべきである。そうすると、考えられる機能としては、たとえば、 - 調べもの支援、情報源の多様化と提示 - デジタル情報へのアクセス支援 - 生涯学習支援 - 地域化・国際化の支援 などが考えられ、他の施策（特にレファレンスサービス）と重なる部分があり調整が必要かもしれない。今後、検討されたい。

令和6年度実施事業の総合所見
府中市立図書館の第三者評価として、令和6年度も14項目のサービス内容について図書館協議会の中で審議し評価した。各委員からは、様々な評価する意見や改善案が提示された。それだけ府中市立図書館のサービスに期待するものも多く含まれ、活発な意見が交わられた。具体的な評価内容については、各項目を参照していただくことになるが、図書館職員の方々のご努力に感謝したい。当然ながら、評価には、今後への期待や改善点の指摘が含まれる。今回、評価二年目ということで、各委員から多くの具体的な改善案が出された。図書館の運営方針や予算の問題もあり、即対応することが難しい案件もあると思う。しかし、より良いサービスを提供するための指摘であり、図書館内での協議を踏まえ、改善できる点は対応していただきたい。図書館の基本的な機能は情報提供である。それを支えるためには、人と情報と施設がうまく絡み合う必要がある。図書館職員を育て、情報の充実のための予算を確保し、そして市民の身近にある図書館施設を維持するため、より一層の努力をお願いしたい。今回の評価を活かしていただき、今後も市民にとって使い勝手のよい、役に立つ図書館を目指してもらいたい。